

小林可夢偉は無念のリタイア。国本雄資は 11 位完走。

2022 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第 4 戦レポート

開催日程	2022 年 5 月 21 日(土) / 22 日(日)	開催場所	オートポリス(4,674km)
大会名称	2022 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第 4 戦 (42 周 / 参加台数: 21 台)		
天候 / 気温	5 月 21 日(土) 晴れ / 21 度 22 日(日) 晴れ / 24 度		
観客動員数	5 月 21 日(土): 3,400 人 22 日(日): 5,100 人 計 8,500 人(主催者発表)		

5 月 21 日～22 日、大分県のオートポリスでスーパーフォーミュラの第 4 戦が行われた。今大会は今年から 2 年ぶりに再開したピットウォークに加え、お子様連れ限定の「キッズウォーク」も行われるなど、コロナ感染対策による規制も徐々に緩和され、多くのモータースポーツファンが訪れた。

オートポリスは、小林にとっては 3 年ぶりのラウンドとなる。また、去年は雨により決勝は 11 周で終了。2019 年は大雨により翌日に予選が延期され、さらに赤旗中断になるなど、雨に翻弄されるレースが多かっただけに、予選・決勝ともにドライで行えるのは実に 4 年ぶりとなる。ドライバー、チームともに得意とするサーキットであり、小林は 2018 年の予選 Q2 で当時のコースレコードをマークしている。前回の鈴鹿では 2 台ともにポイントを獲得しているため、今大会も予選から上位ポジションを狙っていく。



【予選】 天気： 晴れ / 気温： 21 度 / 路面コンディション： ドライ

#7 小林可夢偉 Q1B組： 7位 / 1' 25.404

#18 国本雄資 Q1A 組： 6 位 / 1'25.265 Q2: 9 位 / 1' 25.368

予選日 21 日の朝、曇り空でコースコンディションは所々水溜りが残っていた。9 時 40 分からのフリー走行ではウェット宣言が出された。最初は全車ウェットタイヤでコースインしたが、すぐに乾いていき、早々にドライタイヤへと履き替えた。途中、他車のコースオフによる赤旗の中断はあったものの、小林、国本両選手は順調に周回を重ね、小林は 1' 24.863 で 4 番手と好タイムをマーク。一方、国本は 1' 25.354 で 10 番手となったが、予選への手応えを掴んでいた。

午後になると日差しも強くなり、気温は 21℃、路面温度は 33℃まで上がった。今回の予選も、Q1 は A 組 (11 台)、B 組 (10 台) に分かれ、各組上位 6 台が Q2 に進出する。今回の組み合わせも A 組が国本、B 組が小林となり、各 10 分間の計測となる。

14 時 50 分から Q1A 組開始。各車一斉にコースイン。国本はフィーリングを確認し、ピットイン。ピット前でニュータイヤへ交換すると計測 2 周目でアタックを行い、1' 25.265 6 番手で Q2 進出を果たした。

A 組終了の 5 分後に Q1 B 組が開始。小林は午前のフリー走行が好調だっただけに期待が高まる。しかし、路面コンディションが午前とは変わってしまい、車のバランスと合わせきれない。ニュータイヤに交換し、計測 2 周目でアタックを行うが、トラフィックにも引っ掛かり、約 0.3 秒のロス。ベストタイムは 1' 25.404 7 番手のタイムとなり、惜しくも Q2 進出を果たすことはできなかった。

Q1 終了の 10 分後に Q2 が開始される。時間はさらに短縮され 7 分間の勝負となる。国本はニュータイヤでコースイン。国本も小林同様に午前との路面コンディションの違いに悩まされながらも、計測 2 周目で 1' 25.368 をマークし、9 番手で予選を終えた。

決勝スターティンググリッドは国本が 9 番グリッド、小林は 14 番グリッドとなった。



【決勝】

天気：晴れ / 気温：24度 / 路面コンディション：ドライ

#7 小林可夢偉 リタイア / #18 国本雄資 11位

前日よりさらに日差しが強く、気温も高くなることが予想された決勝日。最初の走行は10時15分から30分間で行われる2回目のフリー走行。この時点で気温は17℃、路面温度は31℃。開始早々に1台のコースオフにより赤旗中断。残り時間20分での走行となり、各車マシンチェックを行う。参考タイムとはなるが、小林は1' 29.571 5番手、国本は1' 30.649 17番手でフリー走行は終了となった。

午後はさらに強い日差しとなり、気温は24℃、路面温度は44℃まで上昇した。14時30分からフォーメーションラップ開始。1周の隊列走行を終え全車グリッドに並び、グリーンシグナルとともに一斉にスタート。各車混戦の中、小林、国本はポジションをキープし、国本が9番手、小林が14番手で1コーナーを通過。その先の3コーナーで複数台のコースオフから1台が単独でクラッシュ。1周目からセーフティーカー導入となった。3周終了時点でリスタート。小林はタイヤを壊さないように労わりながら前車との距離を確保して走行していた。しかし、5周目の2コーナーで小林の右リヤに#38 坪井選手が追突。坪井選手のフロントウイングが小林の右リヤタイヤのサイドウォールを切ってしまう、コントロールを失った小林はガードレールに激突。コース上に走行不能な状態でストップし、この時点でレースを終えてしまう。そして再びセーフティーカー導入となった。車両回収が終わり、9周が過ぎた時点でレースが再開。残りのレースを国本に託すこととなった。国本は9番手のポジションをキープしたまま周回を重ね、10周目から各車ピットインをする中、国本は14周でピットイン。タイヤ交換を終え、14番手でコースに復帰する。21周目に12番手、32周目に11番手まで順位を上げたが、惜しくもポイント圏内にあと一步届かず11位でチェッカーとなった。復調の兆しが見えていただけに悔しい結果となってしまったが、次戦は2台揃っての表彰台、優勝を目指していく。



【ドライバーコメント】

#7 小林可夢偉

開幕戦から調子が上がってきていただけに、今回の後方からの追突によるリタイアは非常に悔しいです。この第4戦の状況としては、午前と午後で路面コンディションが大きく変わり、合わせきれないところもありましたが、Q1のトラフィックさえなければQ2に進出できた可能性が高かったのも悔しいところです。次戦の菅生は自分にとって得意なサーキットです。気持ちを切り替え、菅生では優勝を目指したいと思います。

#18 国本雄資選手

オートポリスはタイヤのレグが大きいサーキットで難しいのは想定していました。ただ、それ以前にちょっとペースが悪く、思うようなレースができませんでした。しかし、ポテンシャルは上がってきていますし、今回もっと上位を狙えたはずです。もう一度考えて走り出しから万全の状態で行けるように、チームと一緒に頑張っていきたいと思います。

【監督コメント】

松田次生監督

このオートポリスは路面コンディションに翻弄されたレースでした。路面コンディションに関しては2&4特有の問題なのか、土曜日のフリー走行はとても調子が良かったのですが、予選の時にはすっかりフィーリングが変わってしまい、そのコンディションに合わせることができず、本来の力を発揮できなかったと思います。クラッシュした小林選手に怪我もなく本当に良かったです。クラッシュした車のダメージは大きいですが、しっかり直して、次のレースでは挽回したいと思います。菅生は結構狭いコースです。何が起きるか分からないサーキットですが、2台揃って上位を目指せるように頑張っていきたいと思います。